

ASEAN グローバルプログラムで 得たもの

今村 駿介
Shunsuke IMAMURA
機械システム工学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけてベトナムのハノイ、シンガポールにてプレゼン、企業研修、大学訪問等を含む ASEAN グローバルプログラムに参加した。具体的なプログラムの日程を表1に示す。本稿ではプログラムに参加した目的、研修内容、そこで学んだこと、シンガポールと日本の比較、プログラム全体を通して得たものとそれをふまえた今後の目標について記す。

表1 プログラムの日程表

8/28 (火)	オリエンテーション
8/29 (水)	アンケート収集
8/30 (木)	アンケート集計
8/31 (金)	企業様の前でプレゼン
9/1 (土)	博物館訪問, 自由時間
9/2 (日)	ベトナムからシンガポールに移動
9/3 (月)	南洋理工大学訪問
9/4 (火)	企業訪問, 若手ビジネスパーソン交流会
9/5 (水)	自由行動
9/6 (木)	帰国

2. 志望動機

今回私がこのプログラムに参加した理由は、海外に出る良い機会だと考えたからである。私自身、海外に出たことが一度もなかった。以前から海外に出てみたいと考えてはいたが、なかなか踏み出せずにいた。そんな時にこのプログラムの話を聞いて、時間の余裕がある時期に海外に出て視野を広めたい、様々な文化に触れたい。そしてその経験が自分の価

値観を変えようと考え、このプログラムに参加した。

3. 研修内容

表1の行程のなかで、最も印象に残ったシンガポールでの南洋理工大学の見学について述べる。南洋理工大学はQS世界大学ランキングにおいて2018年は総合11位であり、欧米の最上位校に匹敵するエリート校であるとともに、シンガポールの大学として最上位に位置付けられている(ちなみに、2018年の東京大学のランキングは28位)。南洋理工大学は同ランキングのトップ50校のなかで最も順位を上昇させている大学であり、創立50年以内の大学(Under 50)のなかでは世界1位にランクされている。そしてこの南洋理工大学での見学のタイムスケジュールを以下に示す。

- 11:45~12:45 大学内で昼食
- 13:30~14:30 Xie Ming 教授の講義見学
- 14:45~16:30 Labo ツアー
- 16:30~17:30 南洋理工大学学生懇談会

以下に4項目に分けて詳しく述べる。

3.1 大学内に来て

南洋理工大学に初めて来て、キャンパス内を散策して感じたことはその広さだった。すべて見ていないが、広さは200ヘクタールほどで東京ドーム42.5個分相当ある。はキャンパス内は学生寮がたくさんあり、スーパーマーケットや服屋さんまであった。日用品なども売られており暮らしが大学内でほとんど完結すると感じた。

3.2 Xie Ming 教授の講義見学

講義はすべて英語で行われ、講義を受けている学生は皆が母語を英語とするわけでもないが教授の質問にも英語で答えていた。講義の内容は恐らく行列の公式の証明だったと思うが完璧に理解が出来ず私の英語力の低さを痛感した。教授のジョークも私の

英語力の低さのため理解できず、南洋理工大学の生徒は笑っているが私たちは笑うことが出来なかった。

3.3 Labo ツアー

ツアーでは2か所の研究室を訪問した。1つ目は Innovation Labo でそこでは様々なロボットの研究が行われていた。例えば手術を遠隔で行えるようなロボットやマンホールのなかを進めるロボット、物を仕分けするロボットなどが紹介されたが、ここでも英語の説明が理解できずまた自分の英語力の低さを実感した。Labo はデスクのほかに様々なものが置いてあって広い部屋が狭く感じ、通路が黄色のテープで確保されていた。2つ目は Robotics Research Centre でそこでは車の研究が行われていた。3D-プリンターでボディーを製作した車や、金属でできたものがあった。金属でできた車は1トンあり、何かに使うのではなく楽しむために作ったと南洋理工大学の学生さんが言っていた。他にはレースに出るのに使われたりする車もあった。毎年ボディーは同じのを使用してエンジンなどを改良しながらレースに挑んでいる。レースで優勝したときの表彰状も飾られていた。

3.4 南洋理工大学学生懇談会

南洋理工大学の MBA で学ばれている日本人の2名方から話をうかがった。お二人は20代で私たちと歳が近く、大学時代の話なども、聞くことができた。学生懇談会の流れは、まずお二人が自己紹介を

されてから、私たち約40人を2つのグループに分け、それぞれの方から15分ずつ話をうかがった。ここでは日本語でしっかりと会話することができ、会が終わってから帰り道でお二人とも学生時代よく海外に行っていたと伺っていたのでおすすめの国を聞いた。すると、一回はアメリカのニューヨークは行ったほうがいいのかと、食べ物がおいしいからイタリアに行ったほうがいいのかと言われた。

4. おわりに

今回のプログラムを通してとても多くの経験ができた。自分の目で実際に見て様々なことを知れたことがとても多く、自分の視野を広げることができたと感じる。それとともにベトナムやシンガポール以外にも他の国への興味も湧いてきたので、実際に行って自分の目でまだ見たことのない世界を見て感じてみたいと思うようになった。また、今回のプログラムで自分の将来についての進路を考える上でのヒントを得ることができた。それは、今自分が大学で学んでいる知識や技術を活かして世界で活躍できる人間になりたいと考えるようになったことだ。これからはまた自分が持っている知識を広く、深くし、今後自分がどのような社会人になりたいのか、どのようなことをしたいのかを考えていこうと思う。とても多くのことを短時間で経験させてもらうことができた。これからも日々精進していきたい。このプログラムでお世話になった皆様に心から感謝いたします。